

北九州市立大学法学部の政策実践プロジェクト

北九州市立大学法学部は、「ZERO距離」と呼ばれる少人数教育が特徴です。教員と学生が密接にかかわり合い、相互に学びあうなかで、社会の変化に対応できる人材育成を目指しています。

また、政策科学科では、公共政策分野の課題解決に向けた政策分析、政策立案能力を養うため、フィールドを重視した実践的な政策研究活動を行う「政策実践プロジェクト」を展開しています。多くの教員が独自のプログラムを実施しています。ここでは3つのゼミの政策実践プロジェクトの取り組みをご紹介します。



○日本公共政策学会の政策コンペへの参画—檜原ゼミ

檜原ゼミでは、日本公共政策学会主催の政策コンペにチャレンジしています。政策コンペとは、開催自治体が提示するテーマに基づいて、学生がまちの問題を定義し、それに対して解決策を提言する研究大会で、いわば「政策提案の甲子園」とも言えるイベントです。まちの現状分析と学生ならではの目線で考えた政策を提案するのがこのコンペの特徴です。

2019年は、11月23-24日の2日間、宮城県岩沼市で「公共政策フォーラム2019 in いわぬま」が開催されました。テーマは「地域資源を活用した観光と交流人口拡大による震災復興」で、檜原ゼミは、全国から集まった13大学15チームの中から予選を勝ち抜き、「岩沼市副市長賞」を受賞しました。2018年は、11月24-25日の2日間、愛知県新城市で「公共政策フォーラム2018 in しんしろ」が開催されました。テーマは「若者活躍社会の拡大」で、檜原ゼミは全国から集まった14大学計16チームの中から予選を勝ち抜き、準優勝「新城市長賞」を受賞しました。



公共政策フォーラム2018 in しんしろ



公共政策フォーラム2019 in いわぬま

○多文化共生に関する実践研究—田村ゼミ

田村ゼミは「多文化共生」をテーマにしています。2019年度は在日外国人とLGBT問題について書かれた本を教材に、今の社会の現状や、共生するためにはどのような問題があるのか、どのようにすれば共生していくことができるのかをゼミ生で議論しました。時にはゲストの方を招いて話を聞かせていただく機会もあり、昨年はLGBT問題について活動している方の話を聞かせていただきました。招いた方の体験談など実際に話を聞くことでそのテーマや問題についてリアルに感じることができるので、本を読む時により深い部分まで理解することができます。

また、ジェンダー格差について世界の行政官の方と議論する交流会を持っており、日本以外の国々のジェンダーに対する考え方や日本とは異なる文化について学べます。日常生活で海外の方と交流する機会はなかなかないので自分の見聞を広げる貴重な体験をすることができます。この交流会では通訳の方がいらっしゃるのでも英語ができなくても安心して議論することができます。(中林友輝)



トランスジェンダーのRoseさんと私たち



世界の行政官との交流会

○地方自治体へのまちづくり政策提案—田代ゼミ

田代ゼミでは、歴史、文化、景観など地域の文化的資源を活用した魅力創出や、まちづくり政策の研究を進めています。田代ゼミの政策実践プロジェクトの特徴は、地方自治体とタイアップしながら、単なるアイデアにとどまらない実践的に役立つ政策提案を目指して、フィールドワークとディスカッションを駆使したプロジェクト展開にあります。

2016年度は大分県臼杵市に赴き、「歴史的文化的資源を活用した公民協働のまちづくり」をテーマに実施しました。2017年度からは北九州市市民文化スポーツ局と連携しながら文化まちづくり政策をテーマとした取り組みを進めています。2017年度は、門司港や小倉駅周辺等を対象地域として、観光と連動した4つの政策を提案しました。2018年度は韓国釜山大学とも連携しながら日韓大学交流プロジェクトとして「コンテンツによる都市再生」をテーマに、北九州市漫画ミュージアムなどへの政策提案を行いました。2019年度は、八幡東区に集積する文化クラスター（ミュージアム群）の多言語リーフレットの制作依頼を受け、コンセプトと基本デザインに加え、東田地区の文化観光まちづくりの政策提案を行いました。

プロジェクトの取り組みの様子は新聞等でも紹介され、実践的な提案は自治体関係者などから高い評価を得ています。



多言語リーフレットのコンセプト&デザイン討議風景



北九州市役所での成果報告会を終えて